

事務局職員 職 氏 名	企画総務部長	大野 悟	企画課長	利根川 忠宏
	企画課主幹	島田 智明	企画課主査	堀口 楓太
	企画課主任	越智 小百合	企画課主事	木寄 彩花

発 言 者	発 言 内 容
企画総務部長	<p style="text-align: right;">開始 午後1時28分</p> <p>1 開会 2 あいさつ (※市長あいさつ) (※教育長あいさつ) 3 協議事項</p> <p>それでは、次第に従いまして、協議事項に入らせていただきたいと存じます。飯能市総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき、新井市長に議長として議事の進行をお願いします。</p>
市長	<p>これより議長を務めさせていただきます。 市長と、教育委員会を代表して教育長、教育委員と意見交換をして、情報共有、意思疎通を十分に図るための会議でございます。 協議事項に掲げたことにつきまして、皆様のお考えや御提言などを頂きますよう、よろしくお願ひいたします。 それでは、「(1) 飯能市学びの改革について」を議題といたします。 事務局から説明をお願いします。</p>
教育部参事兼 学校教育課長	<p>(※資料1により、学校教育課から説明)</p>
市長	<p>事務局からの説明は以上です。 委員の皆様から御意見、御提言をお願いいたします。</p>
委員	<p>飯能市は奥武蔵小学校を皮切りに、全国に先駆けてタブレット学習が始まりました。当初は不安な部分もありましたが、1年後に授業の様子を見たところ、児童はタブレットを使いこなし、遊び道具としてではなく、学習ツールとしてしっかり使っていました。これまでのような、先生をじっと見る受け身の授業ではなかったもので、学びの仕方が変わってきたと感じました。今の子どもたちが少しうらやましく思います。</p>
委員	<p>資料10ページの子どもたちの表情を見ると、心を許し合って、学びに没頭している様子がうかがえます。人と触れ合ったり、一つのものを一緒に見ることで、そこに自分の居場所ができ、学びの目標がしっかりできているのだろうとうかがえますし、この</p>

市長	<p>学び合いが成果を上げていると思います。きっと、この学校ではどの教室でも同じ学習ができていて、どの先生にも子どもたちは信頼を置いているんだらうなと思います。そこに至るまでに、教職員がしっかり研修を積み、「子どもたちのため」という先生方の心が子どもたちに伝わり、子どもたちの様子に成果として表れているのだと思います。一番大事なことは数字ではなく、子どもの人となりによって表れてくるものだと思います。今後も是非、どの先生も子どもから信頼される、子ども同士も信頼できる、そういう関係を大事にして、学び合いを続けてもらいたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。</p>
委員	<p>この学び合いについて、私は保護者視点で拝見しましたが、衝撃的だったのは、先生が一方向的にどんどん説明するのではなく、「これを考えてみよう」と子どもに投げかけ、子ども同士が話し合いながら授業が始まっていくことでした。そして、話し合っただけで授業に臨んでいるからこそ、全く私語がなく、集中している様子がとても印象的でした。何人もいれば、一人や二人は、私語があったりふざけてもおかしくはないのですが、そういう子が一人もなく驚きでした。これが学び合いの成果なのだと思います。</p> <p>タブレットを使った授業などについては、保護者に見学だけでなく体験も是非していただきたいと思います。「今の授業はこうなんだ」ということを知ってもらい、体験してもらうことで、「学び合い」の理解をより得られるのではないかと思います。そして、この取組を成功させているのは、先生方の努力、これしかないと思っています。先生方のがんばりも知ってもらいたいと思います。</p> <p>この学び合いをしている子どもたちが、将来どんな社会人になるのか、非常に楽しみです。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私も昔の感覚でおりましたので、授業を拝見した時、本当に静かだったので驚きました。</p> <p>ほかに御意見はございますか。</p>
委員	<p>今まで先生方が培った様々な良いものを、現代の学校に合わせていくという方向性は、非常に素晴らしいと思います。学びの改革といっても、具体的にどういうことなのか、分からないところ</p>

	<p>もありましたが、説明を聴いて取組の視点やポイントが分かりました。</p> <p>1 1月に双柳小学校の研究発表会に行かせていただきましたが、昔と違うと思ったのは、先生の声がとても小さいことでした。昔は子どもが声を出して、先生はその声に被せるように大きな声を出す、という具合でした。今は、子どもたちはしっかり集中して先生の話聴いているので、先生の声が小さくても問題がなく、これが今の基本なのだと思います。これはすばらしいことだと思いますし、確実に成果が出ていると思います。</p> <p>また、今後のことについて3点思ったことがありましたので、お話しいたします。</p> <p>まず1点目は、この取組をどのように先生一人一人に広げて、発展させていくかということです。先生方におかれましては、研究授業や学校指導訪問などをされていますが、どのような視点で授業を行ったのか、先生同士がお互い共有をして、それを活かしてより良いものにしていくことが大事だと思います。</p> <p>2点目は、評価についてです。「聴く・つなぐ・戻す」について、子どもたちはどの程度できれば良いのか、おおまかでも良いので評価の基準があったら良いと思います。その基準に基づき、具体的に先生にほめてもらえたら、次のモチベーションにつながると思います。</p> <p>3点目は、時間の確保についてです。決められた時間内では、指導内容を教えきれないのではないのでしょうか。特に心配なのが中学校です。学校行事や部活動がある中では、授業時間の確保が難しく、教育課程の7～8割ほどしか消化できていないと思われる。そこで、取り組むことを重点的に決めて、時間を割り振り、効果的に授業を行うのはいかがでしょうか。力を入れるものが明確になれば、特色ある学校づくりにもつなげられると思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。</p>
教育長	<p>学びの改革の成果を出すには、5年はかかると言われております。先程紹介された双柳小学校にしても、着実に進歩している富士見小学校にしても、学びの改革を始めてから5年以上経っており、5年かければ成果が出ることは実証されております。全ての小中学校に学びの改革を拡大するのが教育委員会の使命だと考えております。そのためには、教職員に学び合ってもらわねばなりません。我々が現役時代にしてきた数倍の教材研究をしなけれ</p>

	<p>ば、基礎から学ぶ意欲までを、授業の1時間の中で子どもたちに学ばせることはできません。1年間の教育課程で修めるための授業もしなければなりません。これは並大抵のことではありません。しかし、双柳小学校には、学びの改革のストックがありますので、小学校にはかなり広げられると思います。問題は、委員がおっしゃったように、中学校でどれだけ広げられるかということです。中学校でも7校中3校については、1年取り組んでおりますし、4校も始めようと計画をしております。教育委員会では、学びの改革を始める学校がスムーズに始められるように、予算措置を含め体制を整える必要があると考えています。</p> <p>また、委員がおっしゃったように、学びの改革を推進するためには、保護者の理解を得ることも大切です。来年度からは、コロナ禍で開催できなかった「授業参画」を実施する学校も増えており、この実証にも取り組んでいきたいと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。</p>
委員	<p>タブレットを使っておりますので、ICT環境の整備をお願いいたします。数年ごとに更新が必要だったり、他市などから情報が入り新しいソフトを試したいということもあると思います。飯能市は他市に先駆けてタブレットを導入しておりますので、先細りにならないよう、予算を含めて是非今後も御支援を頂ければと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。 (なしの声あり)</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>学びの改革によって、児童生徒の思考力、判断力、表現力、問題解決力を育成するとともに、生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための豊かな心と健やかな体を育成していくことが求められています。</p> <p>主体的、対話的で深い学びの実現、学習用タブレットの活用、そしてSDGsの視点や森林環境教育を取り入れた授業など、教育委員会のみならず、様々な部署、そして市民、団体と連携していくことが重要です。</p> <p>今後とも皆様の貴重な御意見を参考にして取り組んでまいり</p>

<p>市長</p>	<p>ますので、どうぞ御協力をお願いいたします。 それでは、「(1) 飯能市学びの改革について」は、以上とさせていただきます。</p> <p>つぎに、「(2) 飯能市における不登校児童生徒の現状について」を議題といたします。 事務局から説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課副 参事兼教育セ ンター所長</p>	<p>(※資料2により、学校教育課から説明)</p>
<p>市長</p>	<p>事務局からの説明は以上です。 委員の皆様から御意見、御提言をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>不登校率の現状についてですが、全国、埼玉県、飯能市の全てにおいて不登校率が上昇傾向にあり、コロナ禍が大きく影響していると思います。学校の楽しい行事がなくなり、ずっとマスクをつけ、給食の時間も前を向いて話もできない、そんなコロナ禍の影響が大きいのだろうと察することができます。</p> <p>また、飯能市が埼玉県より不登校率が高いことは、憂うべき問題であり、大きな課題です。学校も教育センターも、専門家の力を借りたり、不登校の児童生徒の受け入れを続けて、不登校の子どもを減らしてほしいと思います。</p> <p>不登校の問題は随分前からあり、いじめとリンクした場合、大きな問題となっています。今回の資料では、不登校の理由の内訳まではわかりませんが、教育相談の内容を見ますと、いじめに關しての相談は、他の相談より少ないようです。相談件数が全てということは当然ありませんが、教育相談の内容からも、様々な問題が原因で不登校になっていると考えられますので、学校と教育センターは、一人一人に応じて、できる限りの対応をしてほしいと思います。その体制づくりのために、予算などの必要な措置を是非考えてほしいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、しばらく休んでいた子どもが学校に来たとき、A先生は調子はどうかと尋ね、子どもが「つらいです。」と答えたら、</p>

<p>市長</p>	<p>「無理しなくていいんだよ。」と言います。寄り添ったつもりが、「～しなくていいんだよ」と免除してしまっているのです。子どもが「休みたい。」と言えば、休ませてしまいます。同じ場面でも、B先生は「つらい」と答えた子どもに、なぜつらいのか理由を尋ねます。そして「数学の授業が分からないから。」と答えた子どもに、「今まで勉強していなかったからだよ。放課後、一緒に勉強しよう。」と提案します。そして、子どもは勉強が分かったことで楽しくなり、次の日からも学校に来られるようになります。このように、先生の一言が、子どものその後を左右してしまいますので、先生方には、ケースに応じた対応スキルを上げていただけたら有り難いです。私は今、飯能第一中学校のステップアップルームでボランティアをしています。学校に来られなかった子が来られるようになった成果を見ております。放課後しか来られなかった子が、昼間も来られるようになったり、毎回ではなくても、学校に行くと言やし、時間どおりに行けるようになったり、子どもたちが、少しずつ学校を自分の居場所に使っています。子どもはステップアップルームに来たとき、学習の成果をノートに書き、それに対して先生がコメントを書きます。そして、次に来たとき一番始めにそのコメントを見て、にこっとしたり、様々な表情を見せるのです。「不登校は病気ではない」と言われるように、先生のコミュニケーション次第で改善できることもあると再認識しました。また、先生方には研修を重ねて、自信を持って不登校の子どもたちと向き合えるスキルを身につけていただきたいと思いました。</p> <p>また、不登校はその子の特性にもよるところがありますので、その特性に応じた対応が大事だと思います。早期発見、早期対応については、飯能市で行っているネウボラがとても効果的だと思います。教育部局と市長部局のパイプを今後更に太くしていただき、子どもたちの生きづらさを少しでも軽減するような対策をしていただけたら有り難いです。その一つとして、成育カルテといいますが、データを表にして、それに基づいた取組なども必要になってくるのではないかと思います。</p> <p>最後に、思い切って教育センターに電話してみたところ、非常に混んでいて、なかなか相談の順番が回ってこないという実態があるそうです。「今困っているのに」、「今聴いてほしいのに」という状況で、次の方法があることを相談者に伝えられるセンターになっていただけたらと期待しています。</p> <p>ありがとうございました。</p>
-----------	---

委員	<p>ほかに御意見はございますか。</p> <p>不登校の子が戻りたいのは、やはり自分が通っていた学校や、仲が良い友達の中だと思えます。委員もおっしゃっていた先生とのコミュニケーション、そして友達とのコミュニケーションを大事にして、そこから解決の糸口を見つけ、ときにはタブレットを使ってみるなど、周りの環境を利用しながら、取り組んでいただきたいと思います。様々な事情があるので一概には言えませんが、子どもが「学校に行く」と思えることに尽きると思えます。</p> <p>先生にとっては、不登校の子の対応スキルを上げるのは大変で負担になるかもしれません。しかし、不登校の子が学校に来るようになるということは、先生にとって一つの経験、大きな成果になるのではないのでしょうか。</p> <p>様々な取組によって、最終的に不登校の子が減れば良いと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに御意見はございますか。</p>
委員	<p>不登校の実態がよくわかり、対策をしなければならぬと感じております。</p> <p>教育センターや相談室の話を聴きましても、これ以上のことをするのはなかなか難しく、学校での対応を改善していく必要があると考えます。子どものSOSを見つけ出すため、早期発見、早期対応をするため、特に中学校での教育相談会議を充実させる必要があると思います。</p> <p>また、さわやか相談員の役目も重要です。校長や教頭とさわやか相談員が連携を密にして、しっかり取り組まなければ、学校の相談機能が低下してしまいます。学校規模によって仕事量も異なりますから調整も必要でしょうし、体制づくりに関わる課題が今後出てくるのではないのでしょうか。</p> <p>そして、これは奥武蔵小、中学校を視察した際にも申し上げたことですが、小中学校の連携が非常に大切です。ご覧になった方もいるかもしれませんが、11月28日にテレビ放送された番組のお話をさせていただきます。番組では、2人の事例を取り上げていて、そのうちの大阪府泉南市の男子中学生については、自殺につながってしまったものでした。彼は小学生のとき、不登校の傾向がありました。中学生になり、いじめが原因で学校に行けな</p>

	<p>くなつたとき、彼は担任の先生に、「今後は学校でがんばっていきたいので、小学生のとき不登校だったことを含めて自分のことをみんなに話し、理解してもらいたい」と話しました。しかし、担任の先生には全く聞いてもらえませんでした。その後彼は不登校になってしまい、彼と彼の母親は、教育委員会、大阪府に転校希望の旨を伝えましたが、「学校に行けるようにならないと転校はできないから」、「他にも対応することが多いから」といった理由で断られてしまったのです。そして彼は、その後自殺してしまいました。私は、もし彼が通っていた小中学校の連携ができていて、彼と意思疎通ができていたら、こんな痛ましい結果には至らなかったのでは、と思いました。改めて、小中学校の連携の大切さを強く感じました。埼玉県内では、志木市や浦和区、日高市で、小中学校連携の動きがあるようです。飯能市教育振興基本計画でも、小中学校連携について掲げられていますが、現状は少し遅れていると思いますので、しっかり取り組めたら、不登校の問題も改善できるのではないのでしょうか。</p> <p>最後になりますが、わせがく夢育高等学校と連携して、地元資源を利用したり、不登校特例校の不登校児童生徒に配慮した特別な教育課程など、今後はそういった新しいことにも取り組んでいけたら良いと思っています。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。</p>
教育長	<p>不登校の子どもについては、私が教育長に就任した当時、人数や理由について教育委員会で共有がされていませんでした。それまで何とか対応していたから、というところがあったのでしょうか。私が教員だった頃は、不登校の子どもはほとんどおらず、いても数人でした。コロナ禍という社会環境によって、ここまで変わってしまったというところは確かにあります。しかし、それを「仕方ない」としてはいけません。現在は、定期的に不登校のこどもの人数を共有していますが、数の把握だけでは解決になりません。どの状態の子が、どこに、どのくらいいるのかを把握できるように、岡山型スタダートを参考にした飯能型スタダートの作成を検討しているところです。</p> <p>また、A Iによる児童生徒理解を、試験的にアプリを導入して行ってみようと考えています。1年間無料で使えるアプリがありますので、次回の校長会議でその説明をする予定です。A Iによって、委員がおっしゃっていた、先生によって対応が変わってし</p>

	<p>もうということも少しでもカバーできれば、不登校対応の改善につながるのではないかと考えております。</p> <p>また、未然防止のために、既に検討をしておりますが、教職員の研修、特別支援教育に関する研修、管理職を対象にした保護者対応の研修など、様々な研修が必要だと考えております。</p> <p>そして、とにかく学びの改革を小中学校に拡大することが肝要です。学びの改革を始めた加治東小学校では不登校児童ゼロ、双柳小学校は割合が全国、埼玉県より低い0.8パーセント、という状況です。双柳小学校の校長先生とお会いした時、「学びの改革は不登校問題の解決に効果がありますか。」と尋ねてみましたが、「すごくあります。」というお答えを頂きました。子どもたちが相談し合い支え合える体制ができれば、全員が学校に来られる体制ができるのです。誰一人取り残すことなく、一人の漏れもない学びの保障をすることが、学びの改革です。</p> <p>それから、委員がおっしゃっていた、小中学校の連携も重要です。小学校と中学校が連携をして、子どもが中学校に入学したときの負担をなくすということが、大切だと思います。</p> <p>また、現在百何十人いる不登校の児童生徒の社会的自立に向けた方策、福祉こども部と協力しての居場所づくり、教育センターの充実、こういったことも考えていかなければならないと思っています。</p> <p>問題解決に向けて、教育委員会一丸となって取り組んでまいりますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに御意見はございますか。</p> <p>(なしの声あり)</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>総合振興計画後期基本計画では、不登校児童生徒ゼロを目指しています。支援を必要としている児童生徒一人一人のニーズに対応した教育を、市長部局、教育委員会、そして地域の皆様と連携をして、推進していくことが大切だと思っています。</p> <p>国では、この春から「子ども家庭庁」がスタートします。私からは、子ども家庭庁の創設を踏まえ、子どもの支援など、令和5年度において組織の見直しをするよう指示しています。</p> <p>不登校になるきっかけは様々です。子どもが孤立しないよう、子どもの居場所づくりなども考えていきたいと思っています。</p> <p>今後とも、皆様と意見交換をしながら取り組んでいきたいと思</p>

市長	<p>いますので、引き続き御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、「(2) 飯能市における不登校児童生徒の現状について」は、以上とさせていただきます。</p> <p>それでは、協議事項は全て終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。</p> <p>ご協力いただき、ありがとうございました。</p>
企画総務部長	<p>新井市長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第の「4 報告事項」でございます。</p> <p>令和5年度に予定しております教育関連の主な新規事業等について、事務局から報告させていただきます。</p>
企画課長	<p>(※資料3により、企画課から説明)</p>
企画課長	<p>説明は以上でございます。</p> <p>それぞれの詳細については、後程の定例会で説明がありますので、よろしくお願いいたします。</p>
企画総務部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第の「5 その他」でございます。</p> <p>事務局からはございませんが、委員の皆様から何かございますか。</p>
委員	<p>資料3の「(3) ブレア市親善訪問の実施」についてですが、コロナ禍で中止となっていましたが、この訪問は、短期間でも子どもたちが非常に良い経験をできるものですので、実施されること、うれしく思っております。</p> <p>それから、第3期飯能市教育振興基本計画の「フィンランド教育から学ぶ学校教育の推進」にある、フィンランドの現地校への教職員派遣ですが、これもコロナ禍で実施されておりましたが、いずれ実施されるのでしょうか。</p>
企画課長	<p>フィンランドへの教職員派遣につきましては、新型コロナウイルス感染症以外にも、ウクライナ情勢という社会的問題があります。フィンランドはウクライナに隣接しておりますので、安全性を考え、令和5年度は予算確保には至りませんでした。令和6年度以降については、実施計画等で改めて検討していきたいと考えております。</p>

企画総務部長

ありがとうございました。
ほかに委員の皆様から御意見はございますか。
（「なし」の声あり）

それでは、本日の会議は以上で閉会とさせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

終了 午後3時1分

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 5 年 3 月 10 日

市長の署名 新井重治

教育長の署名 中村力